

ロータリー財団について

保存版

ロータリー財団委員長

石崎 孝

ロータリー財団は、1917年米国ジョージア州アトランタで開催された国際大会で、アーチ C. クラン プが「世界的な規模で慈善・教育・その他社会奉仕の分野でよりよきことをするために基金をつくろう」と提案したことから始まりました。ロータリークラブに入会し会員として承認されますと、担当委員会よりロータリー財団への寄付のお願いがされます。

毎年ガバナーからは、目標として1人180ドル以上の寄付のお願いがあります。ロータリアンは、心の中から世界平和・世界理解を推進し、少しでもお役に立ちたいという善意の思いからロータリー財団への寄付を行っていると思います。ゆえに財団への寄付金がどのような目的でどのような流れで有効に活用されているのか、理解しなくてはなりません。ロータリー財団への寄付の種類は多々あります。皆様の寄付が地区に集められ、国際ロータリー財団で管理された後、3年後に年次寄付（使途が特に指定されていない継続的な支援・毎年続けられる寄付）と恒久基金（ベネファクター 1人1,000ドル以上の寄付）の利息50%が地区に返還されます。

それが地区財団活動資金（DDF）として使われる事になります。残りの50%は、WF（国際財団活動資金）としてRIで有益に使用されております。DDFは、年度によって異なりますが、およそ金額になると22万ドルから23万ドルになると思います。税制上の優遇措置として、2005-2006年度から教育的プログラム一括20万円以上の寄付対象でありましたが、2011年4月より公益法人ロータリー日本財団となり、多くのプログラムで優遇措置を受けられるようになりました。それでは、R財団のプログラムを紹介いたします。

1. 教育的プログラム（代表的なプログラム国際親善奨学金・研究グループ交換GSE等）
2. 人道的補助金プログラム（代表的なプログラム地区補助金・マッチング・グラント等）
3. ポリオプラスプログラムです。このようなプログラムでDDFが使われております。

ロータリー財団については、学べば学ぶほど奥が深く難しくなると思いますが、私たちの善意の寄付が、身近な地区財団資金として、有益に使われていることを理解していただくことが大切ではないかと思えます。RI理事会は、2008年6月に、ロータリー財団の未来の夢計画を承認いたしました。3年間の試験期間後2013-2014年度から全面的な実施を行う予定です。それにより、いままでの財団のプログラムは、ほとんど廃止されます。そして、新たなプログラムでスタートすることになります。未来の夢計画については、紙面の関係もあり、財団フォーラムで取り上げたいと考えております。今後ともロータリー財団に理解を深めていただき、ご支援下さいますようお願い申し上げます。

地区ロータリー財団セミナー開催（2011.07.25）

先月25日14時よりロータリー財団セミナーが藤沢産業センターにて約200名のロータリアンが集い開催されました。

我がクラブからは、杉崎会長、石崎ロータリー財団委員長、中野2780地区研究グループ交換委員長、中村奉仕プロジェクト委員長の代理で本多世界社会奉仕委員長が参加され「未来の夢計画」への移行に向けた知識を深めて来ました。



森ガバナーの「ガバナー方針」から始まり、小佐野財団委員長による「前年度の財団実績報告や最新情報」、松宮RI理事エレクトによる「クラブ財団委員会の役割と責務」、神田前



Vision Plan／未来の夢計画）委員会副委員長の「ポリオ・プラス、ロータリー平和センター」の件、高木国際奉仕委員長の「教育的プログラムについて」の話のあと休憩を挟んで堀川前補助金委員長による「人道的補助金について」、最後に山田FVP委員長により「未来の夢計画への移行について」の説明がありました。その後、約1時間の「9グループ別討議」があり3時間のセミナーは閉会いたしました。

ご存知のように当初1人26,50ドルの寄付金から始まったロータリー財団は、現在180ドル以上にまで発展し多くの成果を残してきましたが、更に長期的な持続が望めるプロジェクトを目指し、財団プログラムを出来るだけ簡素化するため「未来の夢計画」がスタートしたそうであります。

石崎ロータリー財団委員長によりますと今回のセミナーは終始「未来の夢計画」の件だったそうです。ロータリアンを自負する我々は、移行を前にもう一度その基盤となる「ロータリー財団」を深く理解する必要があるのではないのでしょうか。

